

してその多くはイラクやアフガニスタン、日本での北朝鮮とは違い、マスコミの報道を通じて日本人が知ることのない紛争だ)が存在する。そして、武力衝突が起こる、起こらないに関わらず、貧困の問題も大きな課題としてある。「それから比べれば、日本なんて全然平和じゃん!??」それが、自分が海外に出て行った動機だった。

一方で、最近日本の「軍国主義化」に対する懸念が徐々に高まっているのも感じる。特に先日起こった長崎市長に対する銃撃事件は自分にとって大きなショックだった。軍事費世界トップ3の常連である事実が示すように形骸化しているとはいえ、また微妙な解釈が可能であるとはいえ、文章的には戦力不保持を謳っている、と一般に思われている憲法第9条も含めた改憲の可能性もあるということを知った。海外在住の日本人として、大いに憂慮する次第だ。



以上が日本人である一個人としての日本に対する見方だが、自分の知り合いになったパレスチナ人、そして残念ながら現在のところ数はより少ないとはいえ、イスラエル人の日本に対する見方は非常に好意的で、「よい国だ」というイメージが強い。「日本から来た」というとほとんどのパレスチナ人は必ずうれしそうな顔をして「ジャッキー・チェン!」(日本人ではないけど)、「カラテ」、「トヨタ」などと言ってくる。産業、および文化を通じて日本のよいイメージができ上がっている一例だと思う。

このような「日本ならでは」の世界平和、

経済、文化などに対する貢献は、色々な方法があると思う。そして、その中で必ず欠いてはならないと自分が強く思う点は、「平和憲法を維持する」ということだ。

「国際社会」から応分の負担を求められる、というかも知れない。それはよりDiplomaticな分野とか、JICAのようなODA、さらには団体の中で活動するか、個人として活動するかはともかく日本市民社会の地道な活動で十分に補える。パレスチナに即して言うと、ここで日本の評判がいい一つの理由は、「なんで歴史的に全く関係がないのにそんなにお金をつぎ込んでくれるんだ??」といったものだし、客観的に見て「実行に移すまでの遅さ」などの批判もあるのだろうが、JICAが現地で行なっているゴミ回収事業はとてもいいアイデアだと思う。「トヨタ」「カラテ」「ジャッキー・チェン」が現地の生活に貢献していることは先に述べたとおりだ。

なにより、日本という国の国際社会に対する最も大きな貢献は、自らの非武装化を通じて東アジア全体の緊張緩和に努めること、さらには世界中で少しでも多く「軍隊を持たない国」を増やしていくよう努力していくことだ。9条の維持がその前提条件であるのは言うまでもない。それは同時に、世界中に約30あるという「軍隊を持たない国/持たないと言われている国」の中で最大の経済力・産業水準・人口を持つ国として、「軍隊を『持たない』のではない、『持てない』のではないか」、あるいはひどい言い方だが「侵略価値が無いから『持

つ必要が無い』のではないか」などという疑念にも答えることになる。



話が少しずれるが、「武」という字は、「ホコ」を「止」める、と書くと習った覚えがある。

日本は過去様々な格闘技を発展させたが、実際に格闘技を3年間やってみて、それは相手を傷つけるテクニックを学ぶというより、「礼に始まり礼に終わる」という言葉に象徴されるような精神教育、おおいび「押（して）忍（ぶ）」という言葉に表される肉体鍛錬を通じた精神鍛錬と言う意味合いもかなりある。多くの格闘技が「道」という言葉を使っている（柔道、空手道、弓道、剣道、合気道、テコンドー？）のにもそれがよく表れているし、ハッサン・バイエフさん（※1）が世界的な柔道家であるのも十二分に納得できたりする。

そのような武道大国、「武」の先進国であり続けた日本こそ、新しい「武」を提唱するに相応しい。ただそれは、例えばガンディーやキング牧師の提唱したような非暴力的方法によってこそなされるべきだ。

「ホコ」を止めるのは、「ホコ」によつてすることもできる。でも長期的に見てより効果的なのは、自衛隊の（スピード的には、専門家の意見も取り入れるべきだろうが）武装解除であり、文化交流、経済交流を通じた信頼関係の醸成、あるいはよい意味での「相互依存」の構築だろう（日本との貿易がとても大きいので、日本をもし攻めるととても自国の経済が成り立たない、といったような）。そのような、9条の維

持と武装解除、および、より一層の市民社会の世界平和における貢献という日本独自のユニークな外交を通じてこそ、日本は世界に貢献すべきだ。



安倍総理。今までの議論を踏まえた上で、「美しい国、日本」を、少し付け加える形で「発展的改称」しませんか？ ガンディーのサティヤグラハというのは、「真理（Satya）」に「非暴力／愛（Agraha、Ahimsa）」と、それから「美しい」という概念も付け加わってできた言葉だ、とどこかで読んだ記憶がある。ので、「真理」と「非暴力／愛」を付け加えて、「サティヤグラハな国、日本」とか。

まあ、それはなんだかセンス悪い感じだし、もう少し日本人に分かりやすい形で概念の再構築は必要かも知れない。例えばイスラエルでも、現在の占領政策をそのまま「アパルトヘイト」という外来語を当てはめるのではなく、新しいヘブライ語を考え出そう、という動きも一部であると聞く。

ガンディーが新聞でサティヤグラハの名称を公募したように、私たちも「非暴力」といった、Nonviolenceの直訳であり、しかも「〇〇しない」といった言葉ではなく、日本人の方にストレートに意味が伝わって、総理にも「美しい…！」と認めてもらえるような日本語を考えてみませんか（※2）？ それが、「暴力によらない問題解決」に関する認識を日本中に広めるという意味で、NPJ、もっと広く日本の平和団体にできる憲法9条護持、日本国内における平和的文化の醸成、そして世界平和への貢

献の第一歩かもしれない。

※1 チェチェン紛争の中で人種、政治的立場に関係なく多くの人の命を救い、アメリカに亡命した今もチェチェンの子供たちを救うために精力的に活動をしている医師／人権活動家。

※2 「まず隗より始めよ」という。自分であれば「和力(わりよく)」だろうか。「ワ」

という音は「平和」「対話」「会話」につながるし、「輪」にもつながる。その上、日本は古来より「和をもって尊しとなす」国であり、和風洋風などの言葉では「日本」という意味も持つ。総理のような、美的センスに厳しい？方も含め、気に入ってもらえるフレーズだと思う。

～*～*～*～*～*～*～*～*～*～*～*～*～*～

非暴力トレーニング・ファシリテーター 養成ワークショップ (7月8日～19日、2007年 in タイ)

阿木幸男 (NPJ理事)

NPのフィールド・チーム・メンバー向けの「非暴力トレーニング」のファシリテーター養成ワークショップが開催され、参加した。

アジアからの参加者は、日本1名、スリランカ1名、インド1名、スリランカでの現地プロジェクトに参加中のケニア人1名。他に南北アメリカ、オーストラリア、ヨーロッパ、アフリカから23名の参加。年齢は25歳から60代まで。女性の参加は半数以上であった。

会場はタイのチェンマイ郊外の農村に、ファシリテーターの1人、ウィポーン(タイ人)が、故郷に創設したトレーニング・センター。彼女は仏教徒で、仏教の修養所としてスタートし、現在では、タイの

みならず、海外の団体も合宿やセミナーに活用している。

周囲は畑で、緑の植物に囲まれ、とても落ち着く、平和な環境。木材とワラでつくられた家はアジア風で、周囲の景色とマッチしていた。

食事はウィポーンの友人のスタッフが用意してくれ、主にベジタリアン食であった。村の畑で取れた新鮮な野菜が毎回、盛りだくさんに出され、実に美味かった。ベジタリアンでない人たちにも配慮して、チキン、チーズ、卵類も用意された。

1日のスタートはリラックスするためのゲームの他に、仏教のメディテーションやチャンティングも取り入れられ、和やかな空気が流れ、静かに始まる。

非暴力トレーニングのテキストとして、“Core training guidelines for nonviolent peaceforce field members”と“Opening space for democracy”を使用。執筆者はジョージ・レイキーとダニエル・ハンター。628 ページに及ぶ“Opening space for democracy”は「モンスター・マニュアル」と呼ばれ、NP内だけでなく、世界各地での平和セミナーやトレーニング・セミナーでも活用されているとのこと。

今回のワークショップの参加条件は、NP本部が作成した英文の質問アンケート（非暴力活動の体験、NPとの関わり、非暴力トレーニングの理解、平和活動の経験、非暴力についての理解度、等）にe-mailで返事をし、この第1次審査を通過した人は国際電話でのインタビュー（約15分間）を受け、最終結果を待つ。私の場合は電話インタビュー担当がデビッド・ハートソーで、70年代、「フィラデルフィア・センター」（非暴力トレーニング、非暴力活動のための生活共同体。90年に閉鎖）で活動を共にした友人なので、緊張することなく、英語での受け答えができたのはラッキーであった。

そのインタビューで確認されたことは、NPの非暴力トレーニングのために、年に少なくとも3週間は時間をさく覚悟と用意があること。現在、およびこれからの人生において、非暴力活動に関与することが、自分自身の人生の選択肢の中で優先順位が高いこと。タイでのワークショップには、いかなる理由があれ、途中参加・部分参加は決して認められないこ

と。再度、ワークショップのスタートする前日にはタイに入国し、ワークショップ終了時まで現地に滞在すること、が確認された。

＊

こうした非暴力トレーニングが欧米で活発に行なわれるようになったのは、1960年代のベトナム反戦運動からである。戦争という暴力に反対するデモ、集会において、一部の人たちが暴力を用いたり、それによって逮捕者が出たり、警察官の挑発に暴徒化するなどの事件が相次ぎ、平和運動の内部から批判の声があがった。平和運動家の行動それ自体だけでなく、平和グループ内の決定方式、そしてメンバーの日常生活も、非暴力的で民主主義的であるべきではないか。

そうした中、キリスト教の一つの派、絶対非戦主義のクェーカー教徒らを中心に、非暴力行動、その準備としての非暴力トレーニングをすすめるグループが誕生した。フィラデルフィア市に本部を置く“アメリカン・フレンズ・サービス委員会”が中心となって、ベトナム反戦運動での反省を基に、「非暴力トレーニング」の手法・技術をまとめ、「非暴力トレーニング・プログラム」として作成した。60年代後半のことである。

キング牧師の「公民権運動」に参加し、後の「キング牧師記念社会変革運動」に参画したメンバーには、デビッド・ハートソー、ジョージ・レイキーがいる。ジョージは、1971年フィラデルフィア西地区に創設された非暴力トレーニング・センター兼生活共同体「ライフ・センター」

の主要メンバーである。

そのメンバー、チャック・エッサーとクリス・モアーが1972年頃、日本の「キリスト教友会」(キューカー)の招待で来日した。三田のフレンズ・センターで、日本で初めての「社会変革のための非暴力トレーニング・セミナー」を開いた。友人で、キューカー教徒の石谷行さんのスズメで、私はそのセミナーに参加した。このセミナー参加をきっかけに、フィラデルフィア・センターに非暴力トレーニング研修に2年間、出かけることになる。

*

今回のトレーニングで、とりわけ強調されたのは、「ジェンダー」(男女の社会的役割について)だった。当初のプログラムには入っていなかったが、欧米からの女性参加者の提案で、「ジェンダー・セッション」が入ることになった。この変更に対して、男性参加者、とりわけアフリカからの参加者から声があがった。

「アフリカの多くの国々では、平和、社会主義、差別撤廃を求める活動では、男女の区別はなく、行動に立ち上がる人たちは等しく、弾圧される。我々は一人の人間として声をあげ、闘っているのであり、男であるとか、女であるとか、ではない。男女を性の違いで、殊更に取り上げることは理解しがたい。欧米では重要な問題かも知れないが、我々アフリカ人にとっては、それは議論にのぼることもない。大事なことは、強権的な政府をいかに変革して、人々のための政府に変えるかである」。

しばらく平行線の議論が続いたが、フ

ァシリテーターの助言もあり、「重要と考えるメンバーが相当数いる以上、その思いを尊重して、プログラムの中に入れてみませんか？」となった。

決定は“コンセンサス”(「全会一致」)を採用した。反対意見や異論が出ると、じっくり時間をかけて話し合う。小グループに分かれて話し合って、全体グループに戻るということも。全員が同意になるというのは、ほとんど「不可能」であるが、自分の考えとは違うが、少し譲歩すれば、納得・同意できるというレベルまで話し合うことによって、メンバー間にしこりが残ることはあまりない。

ファシリテーター4人で、ディビッド(アメリカ人)、ウィニー(アメリカ人)、バーツ(フィリピン人)、ウィポーン(タイ人)。2人のファシリテーターが各セッションを担当し、その組み合わせもさまざま。ファシリテーターは「円滑な進行役」という意味で、事前に同意していたプログラムも参加者からの提案・要望で、参加者の同意を得て、変更することが何回かあった。柔軟なファシリテーターの対応の大切さを感じた。

使用言語は英語で、参加者の大半は「第2外国語」として英語を学び、使用しており、抽象的な英語の定義をめぐって議論が起きるといふこともしばしばであった。参加者は忍耐強く、言葉の意味を確認し合い、前に進めていく姿勢に感心した。そうした姿勢から、それぞれが、自国での困難状況にも非暴力で根気よくチャレンジし、対応してきた経験によって裏打ちされている印象をもった。

ジンバブエから参加した女性は、いつも和やかで、欧米人同士の熱っぽい議論にじっと耳を傾けていた。私の隣りに坐ったとき、こんなことを言った。

「ユキオ、こんなふうに議論し、自由に発言できること自体、平和なこと。私はここトレーニング・センターにいてのことだけで、ほっとします。ジンバブエではごく普通の平和活動でも逮捕され、投獄された経験があるだけに、いつも緊張しています。政府にNO！と小声で言うだけでも、何が起るかわかりません」。

それぞれの国の状況が違って、世界中から23人の人たちが集い、民族紛争の解決のために協力し合って、検討し合うこと自体すばらしいことだと思う。NPの活動をより充実させ、実のあるものにすべく、お互いに知恵を絞って考え、議論すること、そして寝食をともにして、ある期間分かち合うこと、それはまるで一種の非暴力・平和の“ファミリー”のようなものである。

＊

トレーニングの主な内容は――

- 参加者の非暴力・暴力体験の紹介
- NPの歴史と現状
- チームとして働くことの意義
- 非暴力とは何か？
- 紛争解決のための大規模な非暴力介入
- 非暴力コミュニケーション
- 非暴力的な紛争解決の方法

- ジェンダー
 - NPの行動原則
 - 非暴力行動の事例研究
 - 「平和構築」、「平和維持」の違いについて
 - スリランカでのNP活動の体験報告
 - 暴力的な場面でのロールプレイ
 - 暴力状況下での非暴力的に対応するシミュレーション・ゲーム（野外）
 - 2人ペアでの対話
 - PBIとNPの共通点と違い など
- 今後はラテン・アメリカ（スペイン語）、アフリカ（スワヒリ語、フランス語、英語）でも、こうした非暴力トレーニング・ファシリテーター養成セミナーをひらくとの発表があった。

＊

世界各地の紛争に非暴力でどう対応し、解決に結びつけることができるか、NPは問われている。何よりも、スリランカでのパイロットプロジェクトが一つの「成功例」として、世界の人々に希望を与えるような結果を導き出せるか、NPはターニング・ポイントにいる気がしている。

新たな非暴力による紛争解決のためのチャレンジのスタートを切って4年、今、まさしく、「正念場」かもしれない。

2007年3月理事会議事録

□日時：3月25日（日）13時～15時20分
（予定より20分延長）

□場所：文京区民センター（東京）

□出席：11人（以下敬称略）

青木護、阿木幸男、青山正、安藤博、大島みどり、大橋裕治（遅刻）、大畑豊、奥本京子、君島東彦、小林善樹、渡辺里香（吉岡達也理事の代理出席、遅刻）

- ・委任状出席（3人）
岡本三夫、清末愛砂、中里見博
- ・欠席（3人）（委任状なし）
浅見靖仁、城間悠子、高井真、
- ・オブザーバー 鞍田東監事、前田恵子

□議長：大畑豊

□書記：小林善樹 議題右の（ ）内は提案者/報告者・担当

□配布資料

- (1)理事会・総会（議題）
- (2)理事会出欠集計表
- (3)非暴力平和隊・日本第5回総会 事業報告・事業計画
- (4)非暴力平和隊・日本（暫定）決算報告書
- (5)会員数報告
- (6)非暴力平和隊・日本 2007年予算案

□理事会成立条件：（その時点で）9名出席、委任状提出3名、計12名で、定足数（理事17名の過半数）を満たしており、成立。

□議題（1）2006年度の主な事業・活動報告（大畑）（詳細はウェブサイトにあります）

1. 月例会開催（毎月）担当：安藤

- ・「タイでの非暴力トレーニング報告」（報告：阿木幸男）9月
この報告は重要で、例会参加者だけでなく、全会員に共有されるべきなので、次号

（今号）のニューズレターに掲載することとした。

- ・『茶色の朝』を迎えないために」（ピースネット刊）勉強会 10月

2. ニューズレター発行

- ・第13号（06年4月）～第17号（07年3月） 担当：中里見

3. 連続講座（ピースネットと共催）

担当：青山、大畑

- ・10人から20人ほどの参加を得て、下記のとおり開催した。

3-1. 非暴力連続講座

- ・第19回「ガンジー思想をひきつぐ：私の出会ったガンディアンたち」4月
長弘毅（日印サルボダヤ交友会・会長、元・富山国際大学教授）
- ・特別編 葉祥明美術館（神奈川県北鎌倉）訪問・横須賀月例デモ参加 5月

3-2. 希望のための非暴力セミナー

- ・第1回「教育基本法改正、日の丸・君が代強制から見えるもの」6月
河原井純子（八王子東養護学校教諭）
 - ・第2回「非暴力をつちかってきた沖縄の平和運動」7月
安良城米子〔沖縄国際大学非常勤講師〕
 - ・第3回「英国とイスラエル・パレスチナでの非暴力実践から」9月
中原隆伸（NPJ 会員、英ブラッドフォード大学修士課程平和学専攻）
 - ・第4回「市民の「平和力」を鍛える」11月
前田朗（東京造形大学教授）
 - ・第5回「こんな絵本に出会いたい：子どもの本から学ぶ自分らしい生き方と非暴力」3月
木村民子（文京区議会議員、『こんな絵本に出会いたい』著者）
- ※報告の冊子作成を考えることにしている。

4. その他の活動

●遺贈金の活用

スリランカ・プロジェクトへ 500 万円 (9 月)・200 万円 (12 月)

NP 総会へ 100 万円 (1 月)

●スリランカ復興開発 NGO ネットワーク参加

●スリランカ研究フォーラム参加

●「NP トレーナー養成セミナー」(タイ・チェンマイ) 阿木幸男理事参加 7 月

●デイヴィッド・グラント (NP 国際事務局スタッフ) との懇談会 7 月

●「非暴力ワークショップ」デイヴィッド・グラント、会場：大阪、7 月

●「PBI インドネシア・プロジェクトでの活動を終えて」藤村陽子 (PBI) 8 月

●「平和を祈る、愛といのちと ART のまつり BE-IN」出展 (主催：BE-IN2006 実行委員会、明治公園) 9 月

●「平和つくる・平和を維持する」(主催：大竹財団・JIM-NET・NPJ) 9 月

●理事会：6 月東京、9 月広島、12 月京都で理事会及び関西会員集会を開催

●スリランカ・フェスティバル参加 (10 月、於：代々木公園、主催：スリランカ大使館)

●スリランカ・プロジェクト視察 (8 月、大橋祐治)

●NP フィールド・ワーカー・トレーニング参加費用の助成、1 人 8 万円 2 人分——徳留由美 (フィリピンへ 5 月 1 日から派遣決定)、荒木梢

●非暴力平和隊・韓国訪問 11 月、8 名で訪問し、有意義な交流をおこなった。今年は日本で交流会を開くことにした。

●リーフレット作成、1 万部完成したので、宣伝に使ってほしい。なお、リーフレットと並んで「地球の子ども新聞」(小学校高学年向けに作られている壁新聞)で、非暴力平和隊・日本の特集が出されている。会員向け

300 円、一般向け 500 円で販売中。

●庭野財団への助成申請、新会員の岡田氏の努力により助成金申請手続に入るようになった。

●GPPAC JAPAN 主催「9・21 国連ピース・ワン・デー」への協賛

●市民意見広告運動への賛同、賛同金 3 千円 拠出

●国際事務局でトレーナー登録 (阿木)

●NP 東アジア・サブ地域事務所 (広島) 開設が国際理事会で承認された (担当：岡本三夫)、デリーの南アジア地域事務所と対等だが、国際理事会の構成上からサブ地域となったもの。東アジア・サブ地域とは、日本、韓国、オーストラリア、ニュージーランド、さらには中国、(台湾)、モンゴル、北朝鮮を包含。その他は南アジア地域とすることとなった。しかし、アジア・コーディネータのラジヴ・ヴォラは「アジアは一つ」だと主張しており、同床異夢は残るだろう。

5. (暫定)決算報告 別途添付

・ 2 月 28 日現在の暫定版。

・ 経費の部の「NP 本部送金 8,000,000」は、正確には「NP スリランカ送金 7,000,000、NP 総会資金として NP セントポール送金 1,000,000」である。

・ 「田中恵美子基金」を特別会計にしてはどうか、との提案があったが、口座が一緒なので、損益計算書の中の 1 項目に含める決算書にした。基金というと利子運用とする形式が多いが、このような形でも支障はないであろう。口座が一緒でも、理事会が決める特別な用途に限定した使い方を厳守することが確実であれば問題はないであろう。口座を分けなくともよい、という結論になった。

□議題 (2) 2007 年度事業計画ならびに予算

1. 月例会開催 (毎月) 担当：安藤

- ・ 今後は、東京月例会と関西月例会を持つこととする。山口や福島でも地域的な活動が行なわれているので、NPJの活動として評価し、記録してほしい、との声あり。メールで事務局宛てに報告をすることとした。
- ・ (その後の情報)関西例会は5月1日18時～19時、京都で行なう。例会に先立って17時から韓日・東アジア交流会の実行委員会を開く。場所は京都駅前キャンパス・プラザ1階喫茶。

2. ニューズレター発行 第18号 担当：中里見

- ・ 第19号～ 担当：阿木の予定だったが、仕事上の事情により辞退の申し出あり、代替りの担当は未定。巻頭言は理事だけでなくともよいし、1人1回とは言わず、何回書いてもいいのではないか。4月の18号は中原、6月は大島。

3. 希望のための非暴力セミナー等 (ピースネットと共催) 担当：阿木・青山・大畑

- ・ 非暴力ワークショップ開催(4～8月、6回シリーズ)

4. 日韓交流イベント開催 (8月9～11日、高野山と京都立命館大学平和ミュージアム) (奥本)

- ・ 1月から実行委員会を立ち上げ、2月23日と3月25日実行委員会を開いた。
- ・ 名称として、日韓交流に重点をおきたいとの非暴力平和隊・韓国(NPC)の意向を尊重し、「韓日・東アジア交流会議」とすることとしたが、「東アジア交流会議」としてはどうか、との異議が出され、韓国側と調整することとした。
- ・ まず日韓の6メンバー団体に呼び掛け、次いでオーストラリア、ニュージーランドのメンバー団体3団体にも呼び掛け、さらに余裕があれば、中国、台湾の潜在的な団体に、さらには野望的に北朝鮮に

も呼び掛けたい。

- ・ ゲストとして、米国からディヴィッド・グラント、インドからアジア地域コーディネータのラジヴ・ヴォラ、スリランカ・プロジェクト・ディレクターのマルセル・スミットの3人を招聘し、NPの全体的な話、インドと南アジアの動き、スリランカの実情を聞くことにしたい。
- ・ 3人のゲストが来日するのであれば、この機会に新聞社なども巻き込んで東京で公開講演会を企画してはどうか、との提案あり、了承された。

5. NP第2回総会参加 (ケニアのナイロビ、9月25～30日) (君島)

- ・ 9月25、26日はプレイベントとしての国際会議で、NP第2回総会は27～30日、メンバー団体は1団体1票の投票権を持つ。
- ・ 次期国際理事の選出が行なわれる。東アジアとして誰を推すか?
- ・ 共同代表の一人グアテマラのクラウディア・サマヨアが国内事情から身の危険にさらされており、NPの活動に専念できないという理由で退任。もう一人英国のティム・ウォリスは出身団体改編のため退任。したがって今回セネガルのオマール・ディオプと米国のドナ・ハワードに変わっている。
- ・ スリランカ・プロジェクトは今後も継続することになる。スリランカでの活動は、国連難民高等弁務官(UNHCR)やユニセフから高い評価を得ている。
- ・ 他のプロジェクトとして、ミンダナオは米国の3人の個人からの資金提供により5月1日から活動を開始する。日本から徳留さんが参加する。ウガンダ、コロomboは検討段階、レバノン調査段階。
- ・ NPの総会に代表を派遣することはメンバー団体(MO)としての権利であり義務

である。これまでは自費負担であったが、NPJの会計から旅費補助金を支出することとする。

- ・ 予算案で活動支援費として計上してある400,000円を充て、不足であれば累計剰余金795,381円からの支出も考えることとする。
- ・ 1～2名派遣することとする。君島は交換教授としてワシントンDCに8月後半赴任するので参加できないだろう。大畑、大橋の2名を候補とする。
- ・ NP、NPJへの理解増進のためには、発足以来5年間の評価を、会員と賛助会員にわかる形で明らかにすることが必要ではないか、との意見あり。
- ・ この総会で、NPJとしてどのような意志表明をするか、を考えておくべし。

6. 理事役割分担

事務局	——安藤、大畑
ML、ウェブサイト管理	——浅見、(鳥山)
名簿・会費管理	——大畑
月例会	——安藤
翻訳チーム	——小林、大橋、 中原
会計	——青木
資金調達	——大橋
講座	——阿木、青山、 大畑

7. 予算 別途添付

※ NP 韓国が参加する韓国の「ピースボート」(2007.7.27、南北の間を流れている漢江(ハングン)河口の水域に船を出し、この水域を「平和の海」にしようというイベント)へ奥本・小林を派遣し、旅費の補助を出そう、という話が出ていたが、このイベントは、国

連軍(実質的には米軍)に異議を申し立てるものであって、NPJから参加することはNon-partisanshipの点で微妙な問題となり得ると考えられる。小林より、NPJの一員としてではなく一平和主義者として参加することにしたいとの申し出があり、旅費補助の予算措置は講じないことにした。

[参考:7月27日は朝鮮戦争休戦協定締結の日だが、休戦協定には、「この水域は両側の民間船舶に開放されるべし」と規定されているのに、国連軍がここに非武装地帯を設定し、民間船舶の航行を制限していることに對する抗議行動として行なわれるイベント]

□議題(3) 人事

1. 理事

- ・ 高井真氏より理事退任の申し出あり。了承
- ・ 小笠原正仁氏(大阪、和歌山人権研究所研究員)に新たに理事になっていただきたいとの提案あり。了承
- ・ 他の理事はすべて再任

2. 事務局長 安藤博再任

3. 監事 鞍田東 再任

4. 共同代表 君島東彦、大畑豊再任

□議題(4) その他

1. NPJ、6月理事会の開催日程と場所

- ・ 会員数が東京都に次いで多く、活発な活動を続けている福島を第一候補にしたい。開催日は6月の日曜日3日、10日、17日、24日のうち、福島側の都合により決めることとする。ただし、それぞれの日に都合が悪い理事は、3日(君島)、10日(君島、青山、奥本)、17日(吉岡)、24日(阿木、大橋)

第5回総会議事録

□日時：3月25日（日）15時30分～16時30分

□場所：（東京）文京区民会館

□出席：14人（以下敬称略）

青木護、阿木幸男、青山正、安藤博、大島みどり、大橋裕治、大畑豊、奥本京子、君島東彦、鞍田東、小林善樹、本田雅和（遅刻）、前田恵子、渡辺里香（吉岡達也理事の代理出席）

□議長：安藤博

□書記：小林善樹 議題右の（ ）内は提案者/報告者・担当

□配布資料

(1)理事会・総会（議題）

(2)非暴力平和隊・日本第5回総会 事業報告・事業計画

(3)非暴力平和隊・日本（暫定）決算報告書

(4)会員数報告

(5)非暴力平和隊・日本 2007年予算案

□総会成立条件：（その時点で）13名出席、委任状提出17名、計30名で定足数（正会員72名の3分の1、24名以上）を満たしており、成立。

□議題（1）2006年度の主な事業・活動報告（大畑） 理事会議事録参照

□議題（2）2007年度事業計画ならびに予算 理事会議事録参照

□議題（3）人事 理事会議事録参照

□議題（4）その他

1. 「9条世界会議」（ピースボート渡辺）

- ・ チラシおよび英文リーフレット配布
- ・ 来年の2008年5月に日本で開催予定。千葉の幕張で5月4日にオープニング、5日は終日分科会、6日は広島、大阪、仙台などに分散して集会を開く。3月30日に第2回実行委員会あり。パンフの配布や、分科会に着いてのアイデア、海外からのスピーカーについてのアイデアなどを求めている。実行委員会に参加してくれる方、この会議を支えてくれる方並びに参加してくれる方を募集している。賛同金は個人1口2千円、団体1口1万円。
- ・ （君島）NPは日本国憲法9条の理念に合致した運動であり、NPの国際理事会などで日本国憲法9条の話をしている。

2. GPPAC(武力紛争を防止するためのグローバル・パートナーシップ)の東アジア会議（渡辺、君島）

- ・ 5月24日、25日モンゴルで開かれる。モンゴルは北朝鮮と国交があり、北朝鮮からの参加があるものと期待されているので、市民版6者会議を開くことを企画している。事前と事後のイベントを日本で開く予定。君島が行けないので、代わりに行ける人はいないだろうか？
- ・ （その後の情報）安藤事務局長が参加の意向を示している。

[NPJとして何をすべきか、何ができるか?]についての討論 16時半～18時半 自由闊達な意見交換がなされた。内容的には別途改めて、議事録ではなく、感想文的なものを提出するようにしたい。

以上

2007年6月理事会議事録

□日時：6月17日（日）9時40分～12時20分

□場所：(福島県)飯坂温泉、なかむらや旅館

□出席：7人(以下敬称略)

青木護、青山正、安藤博、大橋裕治、大畑豊、小林善樹、中里見博

・委任状出席（7人）

浅見靖仁、阿木幸男、大島みどり、小笠原正仁、奥本京子、清末愛砂、吉岡達也

・欠席（3人）(委任状なし)

岡本三夫、君島東彦、城間悠子、

・オブザーバー 鳥山

□議長：安藤博

□書記：小林善樹 議題右の()内は提案者/報告者・担当

□配布資料

(1) 安藤事務局長のメール「NP理事会」

(2) 阿木理事の提案メール6月14日付「Re:「NP理事会」」

□理事会成立条件：7名出席、委任状提出7名、計14名で、定足数(理事17名の過半数)を満たしており、成立。

□議題

1. 夏期カンパの実施について

- ・今回は、9月にナイロビで開催される「国際総会への派遣費用」としてのカンパとする。目標額は二人分として50万円とする。カンパ要請文を6月発行の会報に載せる。(担当：安藤事務局長)
- ・目標額に達しない場合には活動支援

費から充当する。

2. ニューズレター

- ・6月末発行の第18号までは、担当：中里見理事。印刷、郵送の日程は後日決める。
- ・次号(8月末発行)からは、担当大橋理事

3. 「NP日韓/東アジア交流会議」

- ・8月10日18時30分～21時の大阪でのシンポジウムの人集め対策:なんとしても30人規模にしたい。チラシを作り、多くの人たちに呼び掛けなければならない。特に関西の大学の学生の参加を関係各理事にお願いしたい。
- ・チラシは安藤事務局長作成。(その後、君島共同代表から別途案が回付されており、その案に基づいて進めることになるう)。
- ・このシンポジウムに参加する東京からの学生に対する助成金は、夜行バス往復分実費相当額とする。参加費(資料代)は無料とする。宿泊費の負担は考えない。
- ・韓国からの学生参加者への助成金としては、一人当たり3万円を限度とし、総額で20万円を越えないものとしてはどうか。
- ・ゲストに対する費用負担については、デヴィッドは不要との連絡をもらっているが、マルセルには全額負担すべきであろう。ラジヴについては、たとえば航空運賃はコーディネータの費用としてカバーできないものか、を問い合わせてみてはどうか。(一人15万円を上限とする、というような話は根拠がない)

4. 「世界9条会議」に対するNPJとしての賛同金拠出

- ・ とりあえず1万円とする。

5. NP の国際総会への派遣(国際会議を含めて9月24日～30日、ケニアのナイロビ)

- ・ 大畑共同代表の他に、IGCに立候補された阿木理事を派遣する。(さらに大橋理事も加えて3人という声があったが、大橋理事はその時期は行けない事情があるとのこと)

6. 次期の国際理事への立候補

- ・ 立候補決意を表明された阿木理事の決意を歓迎し、当選を果たすよう然るべき根回しを含めて、全面的に支援することとする。

7. 「NP 出版」計画

- ・ 出版を依頼する明石書店との打ち合わせをおこなった(大畑、安藤、小笠原の3氏)。
- ・ 買い取りの条件はなく、部数千部とは控えめではないか、2千ないし3千部くらいを考えている、との発言であった。値段については2千円以下とし、マーケット調査の結果によっては1600円もあり得るかもしれぬ、とのことであった。
- ・ 10月発行は難しいだろう(すでに決まっているもので詰まっている)、年内なら大丈夫だろう。
- ・ 明石書店側の懸念は、(1)一貫性を持つ内容にできるか? (2)高野山の記録を載せるとなると、分量的に多くなり過ぎぬか? 内容的にかなりの収縮をしなければならぬのではないか? これは可能か? (安藤事務局長が責任を持ってやる、と回答)。(3)マスコミを通じて売れるような広報活動を考えてもらいたい、(たとえば書評など)(努力する、と回答)
- ・ 初版印税は現物支給で、印刷部数にも

よるが、50ないし70部程度とのこと。ゲストなどにはこれを渡す。

- ・ 著者割引は20%。

8. NPL 新リーフレットなどの積極活用策

- ・ 鞍田監事から、会報とともに、会員あてに10部、賛助会員あてに5部を、追加注文用ハガキとともに送ってはどうか、との提案があったが、理事あてに10部、会員と賛助会員には1部を送付して、会員拡大のために使うよう要請し、リーフレットの追加注文はメールまたはファックスで、ということを取り組むこととした。メールを持っている会員は7割程度。
- ・ 「地球の子ども新聞」(小学校高学年向けに作られている壁新聞)の非暴力平和隊・日本の特集が出されており、会員向け300円、一般向け500円で販売中だが、まだ相当数残っている。スリランカ・プロジェクトに焦点を当てた特集なので、時期を失しないよう、掲示してくれるような小学校、中学校などに宣伝として無料配布することも考えられる。

9. 次回理事会日程と場所

- ・ 次回は、国際総会派遣者出発に先立って、9月1日(土曜日)15時～、東京の白山事務所
- ・ 国際総会に向けての対応などを協議することとする。

#4 「NPJ 会員不在県解消」に関する積提案

会員空白県: 青森、秋田、岩手、山形、栃木、茨城、山梨、長野、静岡、三重、岐阜、福井、富山、和歌山、島根、鳥取、徳島、愛媛、長崎、宮崎、佐賀の21県
(1)これらの県にお住まいのお知り合い

のお友だちに、新しいリーフレットをお届けしましょう。その方法として「宛名を書いた封筒」にあなたのメッセージ...ひとことでも」を同封し、開封で事務局に送る。事務局では、これにリーフレットを入れて発送する。

(2) 事務局で「空白県の隣県」の会員と相談して「空白県」の県庁所在地で「共同代表や理事」の方の「講演や説明集会」を開催する。

——という提案について、

- ・ 青山理事はピースネットのルートで 500 部配る。青木理事は青森、宮崎、山梨の弁護士仲間、安藤事務局長は秋田、大橋理事は茨城、中里見理事は静岡、富山、島根、長崎、のそれぞれの友人知人に、メッセージなり、裏書きした名刺なりを事務局宛てに送付することを約した。(空白県に知り合いを持っていない小林は、空白県ではない県に出すことにする)。

その他の情報

- ・ 前日 16 日は有形文化財のなかむら屋旅館に理事 6 人が泊り込み合宿、NPJ

のあり方などについての真剣な討議を 11 時半までおこなったことを付記する。

- ・ 17 日の午後は、伊達市内で開かれた NPJ の説明会に参加した。福島県内で中里見理事と鞍田監事が粘り強く続けておられる県下各都市での NPJ 説明会の一つだったが、8 人の方が参加しておられ、NP の活動状況を画像で見て理解してもらえる大橋理事力作のプレゼンテーションに感銘を受けておられたようだった。現に早速お一人の加入があり、会員数拡大のために取り組むモデルとして感銘を受けた。
- ・ 次の関西例会は 6 月 27 日 18 時～19 時、京都でおこなう。例会に先立って 17 時から韓日・東アジア交流会の実行委員会を開く。場所は京都駅そばのキャンパス・プラザ内喫茶ケニア
- ・ NP の「戦略計画」に対するコメントや Nonpartisanship についての考え方など、前夜の合宿で論議された内容については、別途安藤事務局長がメモを作成する。

自2006年 4月 1日
至2007年 2月28日

非暴力平和隊日本 決算報告書

貸借対照表

損益計算書

単位:円

2007年 2月28日現在				自2006年 4月 1日 至2007年 2月 28日			
資産の部		負債の部		経費の部		収入の部	
科目	金額	科目	金額	科目	金額	科目	金額
現金	26,144	未払金	4,060	給料	330,000	会費収入	546,000
普通預金	11,747,875	仮受金	19,800	事務所使用料	250,000	賛助会費収入	444,000
郵便貯金	1,667,196	前期繰越剰余	1,086,605	会場費	9,669	カンパ収入	645,572
		当期剰余	12,330,750	旅費交通費	196,140	参加費収入	29,100
				事務費	66,159	書籍売上	0
				通信費	34,140	預金利息	7,127
				活動支援費	160,000	セミナー収入等	54,310
				NP本部送金	8,000,000	特別収入	20,000,000
				発送配達費	79,570		
				振込料	13,670		
				講師費用	132,000		
				研修参加費	32,760		
				交際費	13,997		
				雑費	77,254		
				当期剰余	12,330,750		
合計	13,441,215	合計	13,441,215	合計	21,726,109		21,726,109

現金		田中恵美子基金			
普通預金	2007/ 2/28現在の残高 青木保管		収入	支出	基金残高
郵便貯金	2007/ 2/28現在の残高	7月28日	20,000,000		20,000,000
未払金	大畑氏2月分経費立替分 (翌月精算)	9月20日		5,000,000	15,000,000
前期繰越剰余	前期までの剰余の蓄積	12月15日		2,000,000	13,000,000
給料	大畑氏月30,000.	1月15日		1,000,000	12,000,000
事務所使用料	事務所の一部を借用 月25,000円				
事務費	コピー用紙他事務用品 コピー代 印刷代				
旅費交通費	大畑氏交通費				
通信費	切手 郵便料金				
交際費	NPCへのギフト(カレンダーを送りました)				
活動支援費	荒木梢氏 徳留由美氏へ				
発送配達費	宅配便				
振込料	郵便貯金口座の当方負担振込み料				
講師費用	講師謝礼6名分				
特別収入	田中恵美子氏より遺言				
カンパ収入	夏期カンパ冬季カンパ等 運営委員借入振替				
雑費	外国送金手数料「地球の子ども新聞」等				

一般会計の財産		一般会計の収支	
資産の部合計	13,441,215	収入	1,726,109
基金残高	12,000,000	経費支出	1,395,359
差し引き	1,442,215	差し引き	330,750

備え付け帳簿類

- ① 現金出納帳
- ② 総勘定元帳
- ③ 普通預金通帳
- ④ 郵便貯金通帳
- ⑤ 経費領収書綴り
- ⑥ 振り込み控

上記の通りご報告いたします。

2007年 3月25日

会計担当 青木 護

費目	主な説明
参加費	2005 年と 2006 年を勘案
会費	2006 年実績に準じる (2005 年と同額)
カンパ	ナイロビ総会 2 名派遣費用 500,000 円を含む (カンパ総額は 2006 年実績を少し下回るが、2005 年実績より大幅減少)
スリランカ・カンパ	特別収支より充当
賛助会費	2006 年より会費に算入
雑収入	月額 6,000 円相当 (2006 年実績)
商品仕入(書籍等)	2006 年実績相当
発送配達費	2006 年実績相当
給料手当	2006 年実績相当
事務所賃貸料	2006 年実績相当
振込料	2006 年実績相当
会場費	実績は年々減少傾向。活動活性化のため 2004 年実績目標
事務費	実績は年々減少傾向。活動活性化のため 2004 年実績目標
旅費交通費	活動活性化のため 2005 年に近い数値
通信費	活動活性化のため 2005 年に近い数値
活動支援費	2006 年は 2 名の FTM 候補を支援。倍増を目標
ナイロビ総会旅費、宿泊費	カンパ資金 (500,000 円) にて充当
アジア地域会議	特別収支より充当
講師費用	2006 年実績
研修参加費	2006 年実績
雑費	9 条世界会議 (Global 9) 分担金 10,000 円。 プラス 2006 年実績
スリランカ・カンパ	特別収支より充当
リーフレット作成費	今年は発生せず
当期収支過不足 (7-26)	経常収支は 394,000 円 のマイナスを予定
前期繰越剰余	
今期繰越剰余金 (28+29)	
特別収入	別名「田中恵美子基金」
特別支出	2006 年支出実績 : スリランカ送金 7,000,000 円、ナイロビ総会資金援助 1,000,000 円 2007 年予算 : スリランカ送金 2,000,000 円、ミンダナオ送金 2,000,000 円、(左記 2 件は具体的実施に際し、理事会の承認を要す) アジア地域会議 2,000,000 円
特別収支 (32-33)	2007 年末残高 4,000,000 円
残高合計 (30+34)	4,659,607 円

非暴力平和隊・日本 2007年度予算 2007年6月23日 理事会

	費目	2006年実績	2007年予算
1	参加費	29,100	40,000
2	会費	1,106,000	1,200,000
3	カンパ	654,572	750,000
4	スリランカ・カンパ		
5	賛助会費		
6	雑収入	67,237	72,000
7	収入計	1,856,909	2,062,000
8			
9	商品仕入(書籍等)	50,000	50,000
10	発送配達費	97,960	100,000
11	給料手当	360,000	360,000
12	事務所賃貸料	300,000	300,000
13	振込料	15,530	16,000
14	会場費	12,669	20,000
15	事務費	72,149	80,000
16	旅費交通費	202,160	300,000
17	通信費	54,300	80,000
18	活動支援費	160,000	400,000
19	ナイロビ総会旅費、宿泊費		500,000
20	アジア地域会議		
21	講師費用	142,000	150,000
22	研修参加費	32,760	40,000
23	雑費	50,031	60,000
24	スリランカ・カンパ		
25	リーフレット作成費	340,348	
26	支出計	1,889,907	2,456,000

	費目	2006年実績	2007年予算
28	当期収支過不足(7-26)	-32,998	-394,000
29	前期繰越剰余	1,086,605	1,053,607
30	今期繰越剰余金(28+29)	1,053,607	659,607
31			
32	特別収入	20,000,000	
33	特別支出	-8,000,000	-8,000,000
34	特別収支(32-33)	12,000,000	4,000,000
35	残高合計(30+34)	13,053,607	4,659,607
36	未払金(負債の部)	113,560	
37			
38	資産残高(35+36)	13,167,167	

会員数分類

2007.3.25現在

		正会員	賛助	計	ブロック計	空白都道府県
北海道	北海道	1	4	5	5	
東北	福島	4	21	25		
	宮城	1	4	5		
	小計				30	青森・秋田・岩手・山形
東京	東京	18	25	43	43	
関東（東京以外）	神奈川	6	12	18		栃木・茨城
	千葉	4	4	8		
	埼玉	2	6	8		
	群馬	1	1	2		
	小計				36	
信越	新潟		1		1	長野
東海	愛知	3	3	6	6	静岡・三重
北陸	石川	1	1		2	福井・富山
関西	滋賀		3	3		
	大阪	8	7	15		
	京都	4	3	7		
	奈良	1	1	2		
	兵庫	4	5	9		
	小計				36	和歌山
中国	岡山	5		5		
	広島	4	2	6		
	山口	1		1		
	小計				12	島根・鳥取
四国	高知		1	1		
	香川		1	1		
	小計				2	徳島・愛媛
九州	福岡	1	1	2		
	熊本		1	1		
	大分		1	1		
	鹿児島	1	2	3		
	小計				7	長崎・宮崎
沖縄	沖縄	2	1	3	3	
(国内計)					183	18県
米国			1	1		
計		72	112	184		

会 員 募 集

- 非暴力平和隊の理念と活動に賛同・支援して下さる個人および団体を会員として募集しています。入会のお申し込みは、郵便振替、銀行振込、非暴力平和隊・日本ウェブサイトの「入会申し込みフォーム」をご利用下さいますようお願いいたします。

◎ 正会員（議決権あり）

- ・ 一般個人：1万円
- ・ 学生個人：3千円

* 団体は正会員にはなれません。

◎ 賛助会員（議決権なし）

- ・ 一般個人：5千円（1口）
- ・ 学生個人：2千円（1口）

・ 団体：1万円（1口）

- 郵便振替：00110 - 0 - 462182 加入者名：NPJ

* 通信欄に会員の種類を(賛助会員の場合は口数も)ご明記ください。例：賛助個人1口

- 銀行振込：三井住友銀行 白山支店 普通 6622651 口座名義：NPJ 代表 大畑豊

* 銀行振込をご利用の場合は、お手数ですが電話・ファックス・メールのいずれかを通して入会希望の旨、NPJ事務局までご連絡くださいますようお願いいたします。

- ウェブサイトからのお申し込み：<http://www5f.biglobe.ne.jp/~npj/nyukai.html>

案内:

『平和・人権・NGO すべての人が安心して生きるために』（新評論、2004年）

君島共同代表が「平和をつくる主体としてのNGO」という章で、NPのことを詳しく紹介しています。この章の抜き刷りを販売しております。ぜひNPの紹介にご活用ください。A5版・表紙カラー・一部300円（送料別）、ご注文は事務局まで。

「ふくしま非暴力平和隊ネット」で試作した缶バッジ

非暴力平和隊を宣伝し、資金を集めるために、NPJ福島在住メンバーで作った缶バッジの普及にご協力ください。NPの鳩のデザインをあしらった、かわいく、洒落たバッジです。価格は1個200円で、10個以上のご購入の場合は1個100円です。

【90円切手を貼った返信用封筒】と【代金の小為替】を同封して次までお送りください。〒971-8171 いわき市泉が丘2-3-4 鞍田 東

▲◆◎◎◎◎◎◎◎◎ 事務局便り ◎◎◎◎◎◎◎◎▲

♪ 1年間6号発行の予定が5号のみの発行になりました。力不足の編集者でしたが、毎号力作の原稿・記事を寄せてくださった執筆者にお礼申し上げます。（中里見 博）

非暴力平和隊(NP, Nonviolent Peaceforce)とは……

地域紛争の非暴力的解決を実践するために活動している国際NGOで、非暴力平和隊・日本(NPJ)はその日本グループです。

これまで世界中の平和活動家たちが小規模な非暴力的介入について経験を積み、功を収めて来ました。NPはこれを大規模に発展させるために2002年に創設されました。非暴力・非武装による紛争解決が「理想主義」でも「理想主義」でもなく、いちばん「現実的」であることを実践で示していきます。

NPは、地元の非暴力運動体・平和組織と協力し、紛争地に国際的なチームを派遣、護衛的同行や国際的プレゼンス等によって、地元活動家等に対する脅迫、妨害等を軽減させ、地域紛争が非暴力的に地元の人によって解決できるよう、環境づくりをすることを目的としています。

NPは2003年9月からスリランカでの活動を開始し、現在20カ国から25人のメンバーを派遣しています。

